

それは、親子の未来を守る連絡



たとえ勘違いだったとしても。  
「あの親子、大丈夫かな」と思ったら、迷わずご連絡ください。

児童虐待相談窓口

虐待かも、と感じたらお電話ください。  
連絡した人のプライバシーは守られます。

こども救援センター

☎027-321-1318

24時間 365日対応

- 子育てがづらい、イライラする、誰かに話を聞いてほしい
- 子どものしつけや接し方で困っている
- 家庭内で自分や子どもが暴力を受けている
- 近所から子どもの泣き声がする

■西部児童相談所

(☎027-322-2498)

■児童相談所全国共通ダイヤル

(24時間☎189)

住んでいる地域の児童相談所につながります

オレンジリボンキャンペーン

市は、児童虐待防止推進月間に合わせ、ポスターやのぼり旗などで児童虐待防止を呼びかけています

オレンジリボンには子ども虐待を防止するというメッセージが込められています



児童虐待は、子どもの心身を傷つけるだけでなく、命に関わることもあります。地域に住む私たちがいち早く虐待に気づき、行動することが大切です。  
問い合わせは、こども救援センター(☎027・321・1318)へ。  
**あなたの電話が救いの手に**  
児童虐待に関する相談件数が年々増加しています。昨

年度の本県の相談件数は、1909件でした。虐待は家庭内で起こることが多く外から見えにくいため、発見が遅れてしまうことがあります。親はしつけのつもりでも、暴力や暴言は虐待です。虐待をいち早く発見するには、地域の皆さんの協力が重要です。ひどい泣き声や怒鳴り声があるなど、虐待かもしれないと感じたら、迷わず左記の相談窓口に連絡

してください。  
**虐待の相談を24時間受け付け「こども救援センター」**  
市は、市役所4階のこども救援センターで、児童虐待についての連絡や相談を24時間受け付けています。子育ての悩みなどの相談にも対応。1人で悩まずいつでも相談してください。適切な支援を行ったり、市の子育てサービスを紹介します。

あなたからのその二報が、  
子どもを虐待から守ります。



募集中です 児童相談所の職員

市は、令和7年度の児童相談所の開設に向け、専門の職員を募集しています。

募集案内は、市役所4階児童相談所準備室(☎027-321-1180)と各支所地域振興課で配布しています。受験資格や申し込み方法など詳しくは、募集案内か市ホームページで確認してください。

- 職種=児童福祉司スーパーバイザー、児童心理司スーパーバイザー、児童福祉司、児童心理司
- 採用予定人数=若干名
- 申込期間=11月1日~12月5日(月)



専門知識を生かして

市ホームページ▶



歩行者の服装や自動車のライトの向きで見え方が違います  
(写真は歩行者と自動車の距離を約25mにして撮影)

		見える		
		暗い色の服装	明るい色の服装	明るい色の服装 + 反射材
見えない	下向きライト			
	上向きライト			

歩行者・自転車 反射材で自動車に自分の存在をアピール

黒などの暗い色の服装は、ライトの光が当たってもほとんど見えません。白などの明るい色の服装と反射材を組み合わせると、ライトが上向きの時だけでなく、下向きの時もはっきり見えるので、夜間でも自分の存在に気付いてもらいやすくなります。

自動車 上向きライトで歩行者などを早期発見

自動車が時速60kmで走行していると、歩行者に気付いてからブレーキをかけて停止するまでに約44mの距離が必要です。上向きライトは約100m先まで照らすことができるので、遠くの歩行者に気付くことができます。夜間は、対向車や先行車などの状況に応じて上向きライトを使って、歩行者や自転車を早めに発見できるようにしてください。

市内では昨年、2310件の交通事故が発生し、11人が死亡しています。今年もすでに6人が交通事故で亡くなっています。  
車や人影が見えにくくなる夕暮れ時や夜間は事故が多くなります。歩行者や自転車の人は、明るい色の服や反射材を着用したり、ライトを点灯したりしましょう。横断歩道が近くにあるところでは、横断歩道を渡ってください。車を運転する時は、早めのライト点灯をお願いします。車のライトは上向き(ハイビーム)が基本です。対向車や先行車などの状況に応じてライトを切り替えてください。  
歩行者・自転車・自動車のそれぞれができる対策を行って、交通事故を防止してください。

歩く時・自転車に乗る時

- 反射材を着用し、明るい色の服を着る
- 自転車は早めにライトを点灯し、歩行者はライトを持つ
- 横断歩道・自転車横断帯を横断する

自動車を運転する時

- 早めにライトを点灯する
- 上向きライトを基本とし、こまめに上下を切り替える
- 横断歩道の近くや交差点などは、特に慎重に運転する



服装や反射材の有無による見え方の違いが動画で見られます

夜間は反射材や上向きライトの活用を

これから年末までは、一年で最も交通事故が多い時期です。死亡事故の多くは、夕暮れ時や夜間に起きています。今回号では、歩行者の服装や自動車のライトの向きによる見え方の違い、交通事故防止のために行えることをお知らせします。問い合わせは、地域交通課(☎027・321・1231)へ。

交通事故を減らすには、歩行者・自転車・自動車それぞれの対策が必要です